

桐生商工会議所管内
景況調査報告書

第104回

(平成26年1～3月期)

平成26年5月
桐生商工会議所
桐生中小企業相談所

調 査 要 領

1. 調査目的 本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、情報化社会に対応した企業経営の指針とするとともに、今後の経営支援の参考に資することを目的とする。
2. 調査時点 平成26年3月1日
3. 調査期間 平成26年1～3月期
4. 調査対象企業数 396企業（うち回答企業数163企業）

5. 調査対象業種

①建設業（回答企業数19企業）

建築・大工業、土木業、管工事業、とび・コンクリート業、鉄骨・鉄筋業、電気工事業、左官・屋根業、塗装業、板金業、その他

②商業・サービス業（回答企業数80企業）

卸売業、小売業、飲食業、サービス業

③製造業

機械金属関連業（回答企業数31企業）

鉄鋼業、金属製品製造業、一般機械器具製造業、電気機械器具製造業、輸送用機械器具製造業、精密機械器具製造業、プラスチック製造業、その他

繊維工業（回答企業数33企業）

撚糸業、織物業、染色整理業、ニット・メリヤス業、レース業、縫製業、刺繍業、その他

DIとは、ディフュージョン・インデックス（D i f f u s i o n I n d x）の略で、このDIの変化を分析することにより経済動向の判断を行います。

このDIは、好転企業の割合から悪化企業の割合を差引き算出し、好転が悪化を上回る場合プラス（+）となり、逆に悪化が好転を上回る場合マイナス（-）となります。

DIについては数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要です。

1. 景況の動き

【業況DI】

今期の業況DIは、全体で**-22**。前期（-21）と比べ1ポイントのマイナスとなった。また前年同期（-30）比では8ポイントのプラスとなった。

業種別では、**建設業+5**（前期比-17、前年同期比-15）、**商業・サービス業-40**（前期比+2、前年同期比+17）、**機械金属製造業+17**（前期比+14、前年同期比+8）、**繊維製造業-32**（前期比-6、前年同期比-1）となった。

【採算DI】

今期の採算DIは全体で**-29**。前期（-29）比は±0ポイント、前年同期（-40）と比べると11ポイントのプラスとなった。

業種別では、**建設業-21**（前期比-10、前年同期比-14）、**商業・サービス業-43**（前期比+4、前年同期比+23）、**機械金属製造業+7**（前期比+4、前年同期比+10）、**繊維製造業-32**（前期比-2、前年同期比-2）となっている。

【来期業況DI】

来期の業況予測DIは全体で**-40**。前期（-29）前年同期（-29）と比べると11ポイントのマイナスであった。

業種別では**建設業-14ポイント**（前期比-27、前年同期比-29）、**商業・サービス業-57ポイント**（前期比-23、前年同期比-8）、**機械金属製造業-15ポイント**（前期比-5、前年同期比-19）、**繊維製造業-36ポイント**（前期比-24、前年同期比-3）となっている。

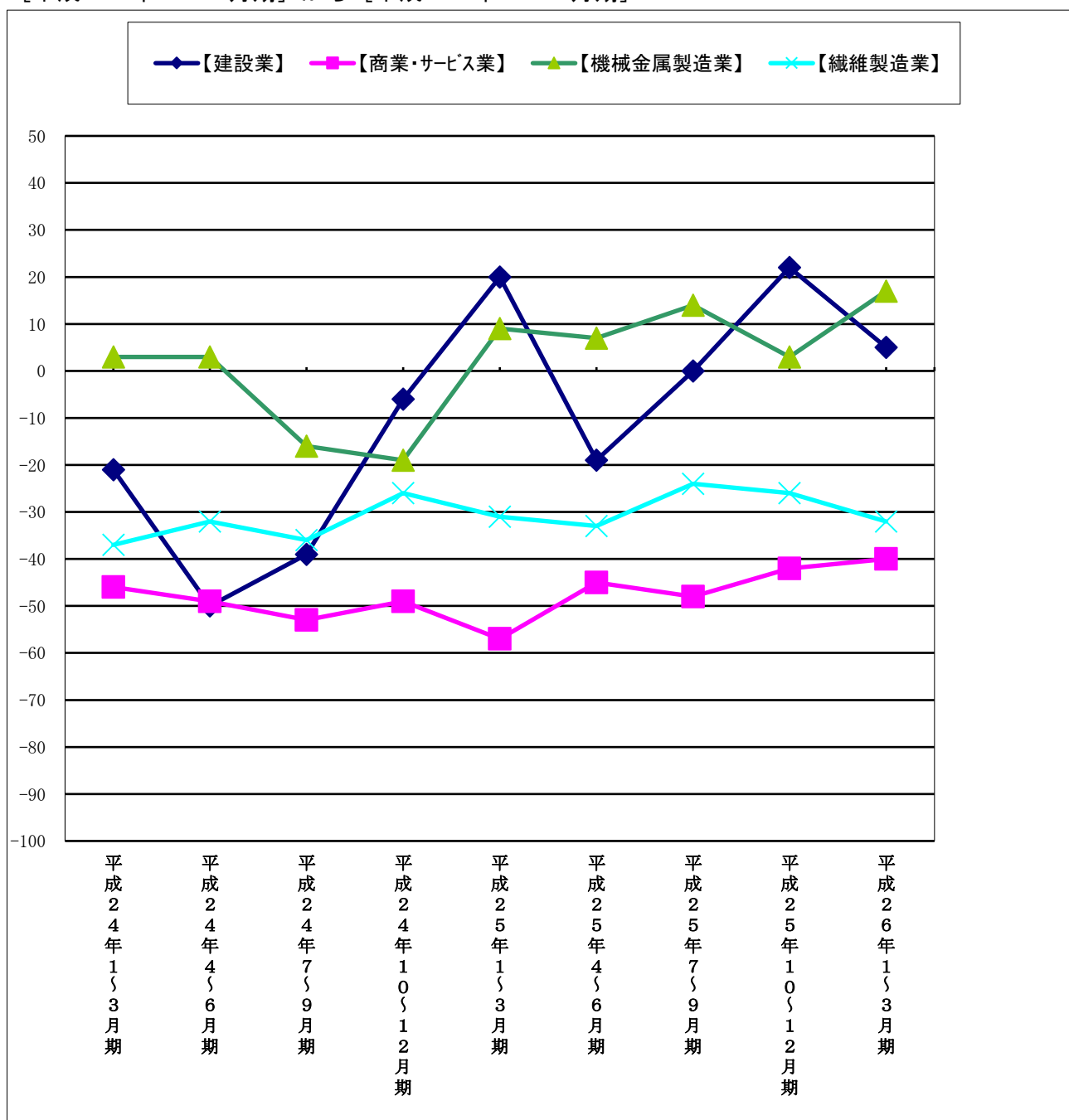
【経営上の問題点】

経営上の問題点としては、**建設業**では「材料価格の上昇」（25%）「請負単価の低下・上昇難」（11%）**商業・サービス業**では「需要の停滞」（19%）「消費者ニーズの変化への対応」（14%）、**機械金属製造業**では「製品単価の低下・上昇難」（19%）「需要の停滞」（16%）、**繊維製造業**では「製品単価の低下・上昇難」（19%）「需要の停滞」（16%）となっている。

業況DIの推移

	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
平成24年1～3月期	-21	-46	3	-37
平成24年4～6月期	-50	-49	3	-32
平成24年7～9月期	-39	-53	-16	-36
平成24年10～12月期	-6	-49	-19	-26
平成25年1～3月期	20	-57	9	-31
平成25年4～6月期	-19	-45	7	-33
平成25年7～9月期	±0	-48	14	-24
平成25年10～12月期	22	-42	3	-26
平成26年1～3月期	5	-40	17	-32

[平成24年1～3月期] から [平成26年1～3月期]



2. 業種別の今期の業況・来期の業況予測

【建設業】

- 今期業況 **今期の業況DIは+5**。前期比は-17、前年同期比は-15となった。
業種別では**建築・大工業〔±0〕、土木業〔-33〕、電気工事業〔+50〕、その他〔±0〕**であった。
- 来期業況 **来期業況予測のDIは-14**。前期比で-27、前年同期比では-29ポイントであった。

【商業・サービス業】

- 今期業況 **今期の業況DIは-40**。前期比は+2、前年同期比は+17ポイントであった。
業種別では、**卸売業〔±0〕、小売業〔-44〕、飲食業〔-55〕、サービス業では〔-33〕**となっている。
- 来期業況 **来期業況予測のDIは-57**。前期比-23、前年同期比では-8ポイントとなった。

【機械金属製造業】

- 今期業況 **今期の業況DIは+17**。前期比では+14、前年同期比では+8ポイントであった。
業種別では、**鉄鋼業〔+40〕、金属製品業〔±0〕、一般機械器具業〔±0〕、電気機械器具業〔-100〕、輸送用機械器具業〔+17〕、精密機械器具業〔+100〕、プラスチック製造業〔+40〕、その他〔±0〕**となっている。
- 来期業況 **来期業況予測のDIは-15**。前期比-5、前年同期比-19ポイントとなった。

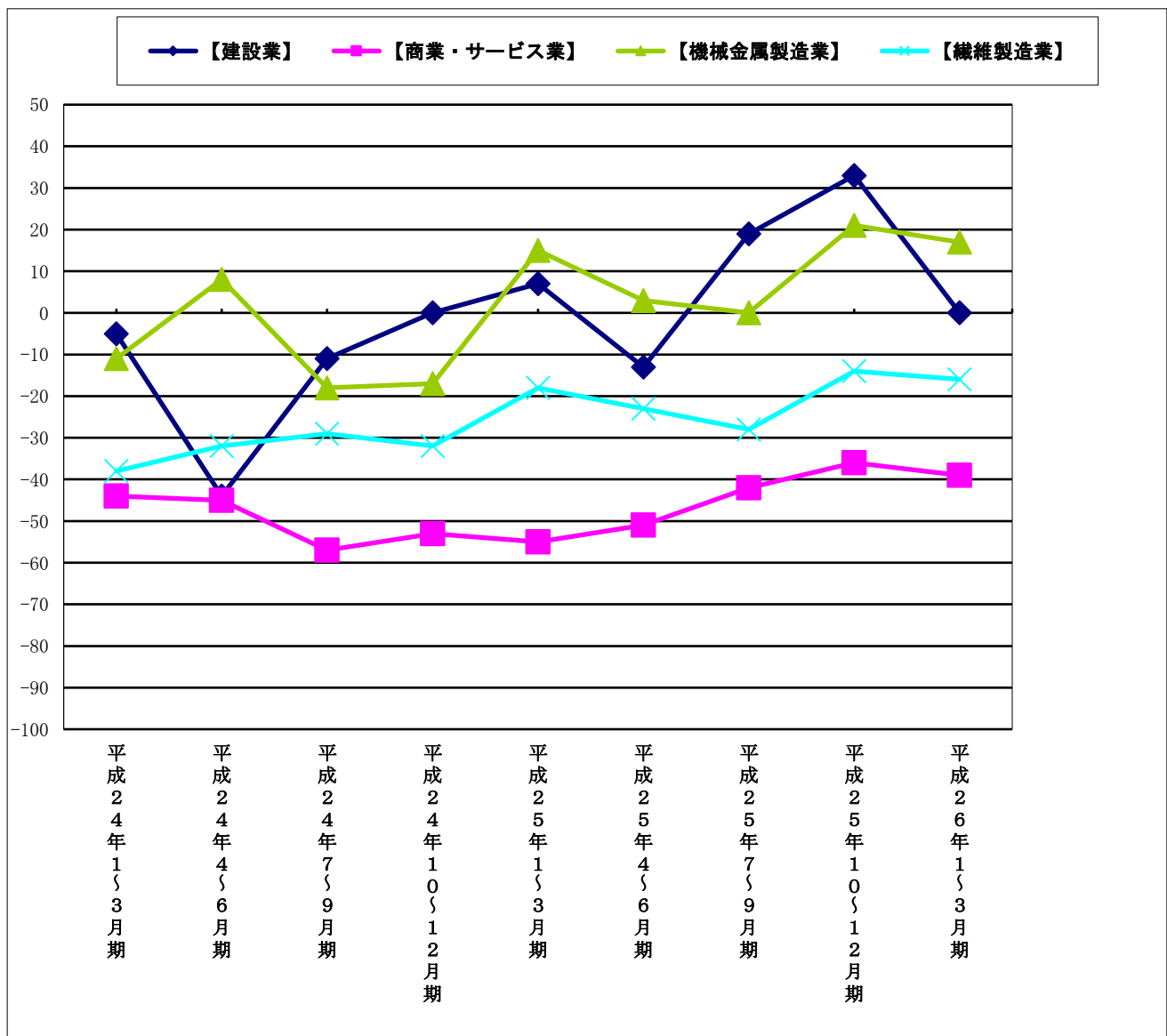
【繊維製造業】

- 今期業況 **今期の業況DIは-32**。前期比では-6、前年同期比では-1ポイントであった。
業種別では、**燃糸業〔±0〕、織物業〔-13〕、染色整理業〔-60〕、ニット・メリヤス業〔-33〕、レース業〔-100〕、縫製業〔-40〕、刺繍業〔-20〕**となっている。
- 来期業況 **来期業況予測のDIは-36**。前期比 -24、前年同期比-3ポイントとなった。

売上額（完成工事額）DIの推移

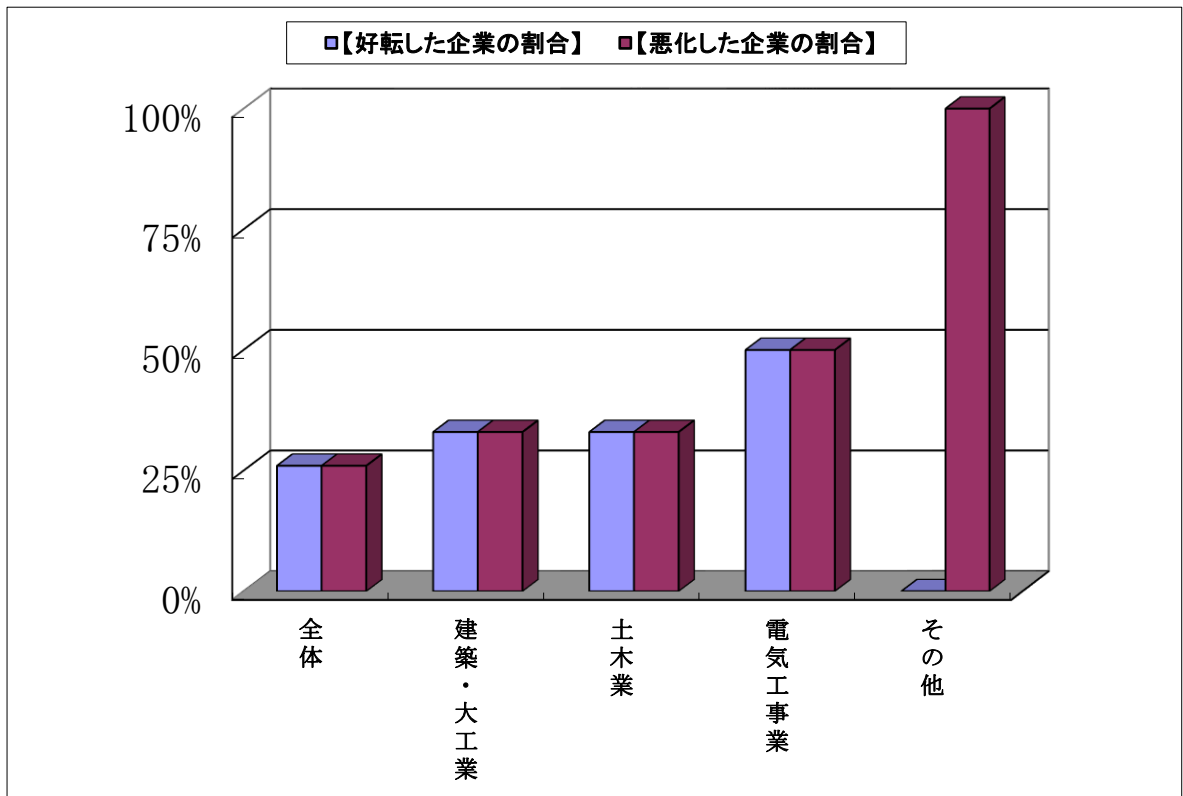
	【建設業】	【商業・サービス業】	【機械金属製造業】	【繊維製造業】
平成24年1～3月期	-5	-44	-11	-38
平成24年4～6月期	-44	-45	8	-32
平成24年7～9月期	-11	-57	-18	-29
平成24年10～12月期	±0	-53	-17	-32
平成25年1～3月期	7	-55	15	-18
平成25年4～6月期	-13	-51	3	-23
平成25年7～9月期	19	-42	0	-28
平成25年10～12月期	33	-36	21	-14
平成26年1～3月期	±0	-39	17	-16

[平成24年1～3月期] から [平成26年1～3月期]

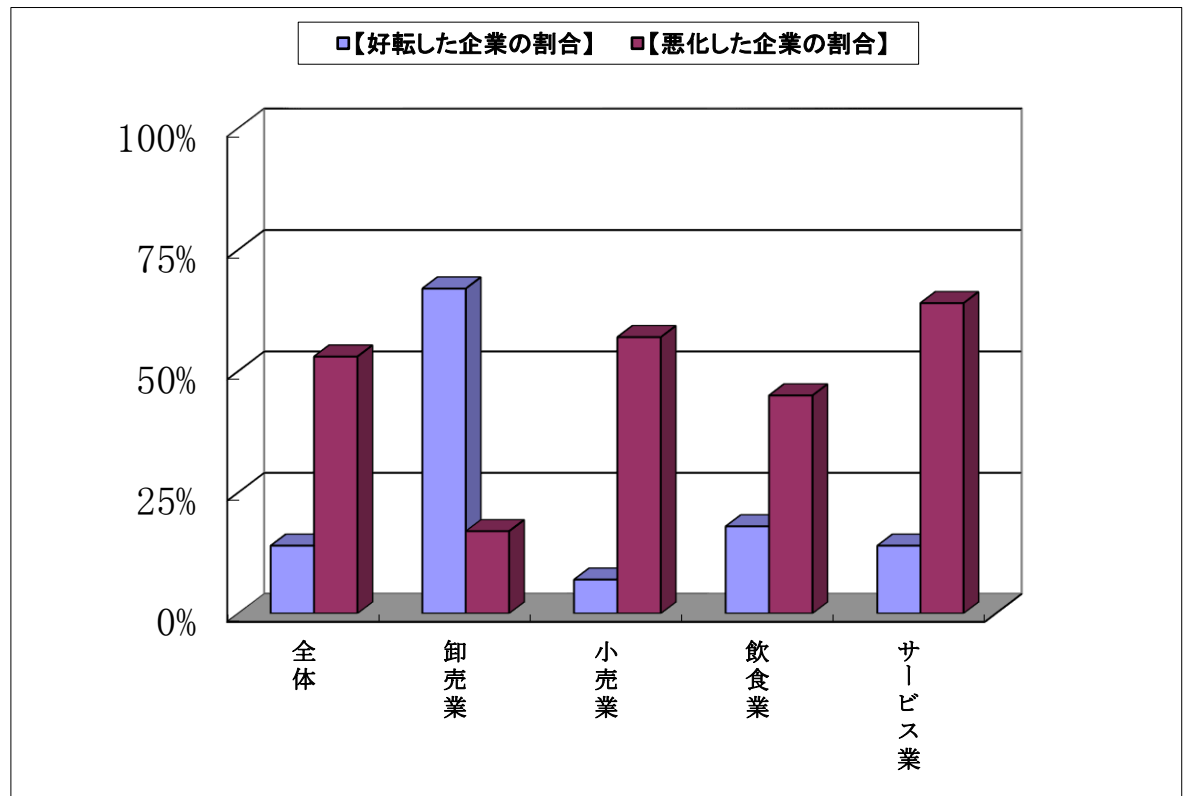


業種別売上額（完成工事額）の状況〈前年同期比〉

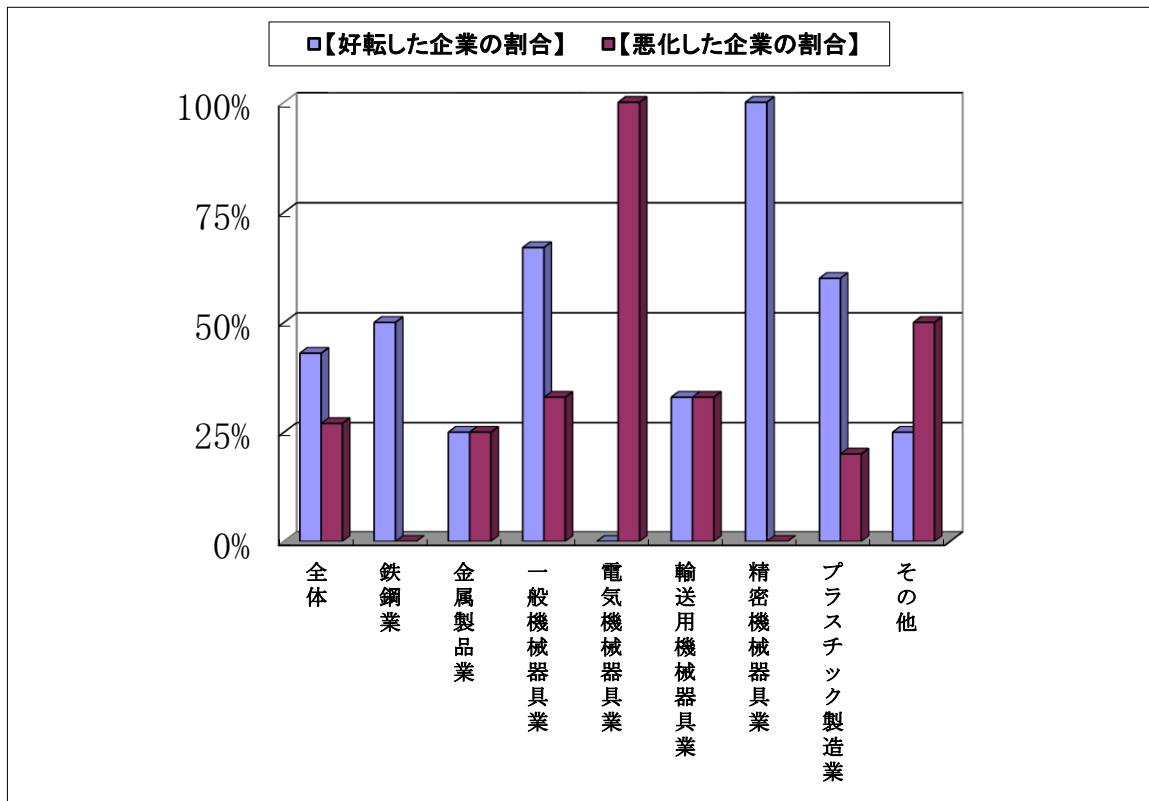
【建設業】



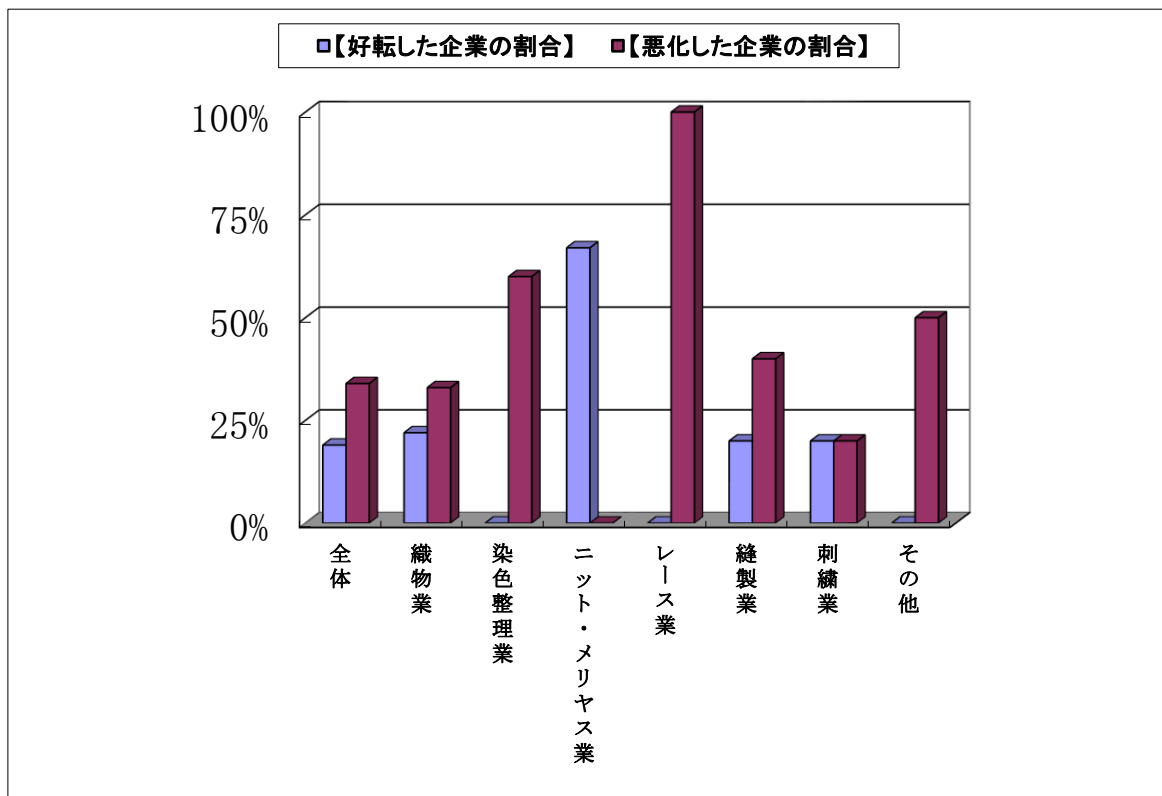
【商業・サービス業】



【機械金属製造業】



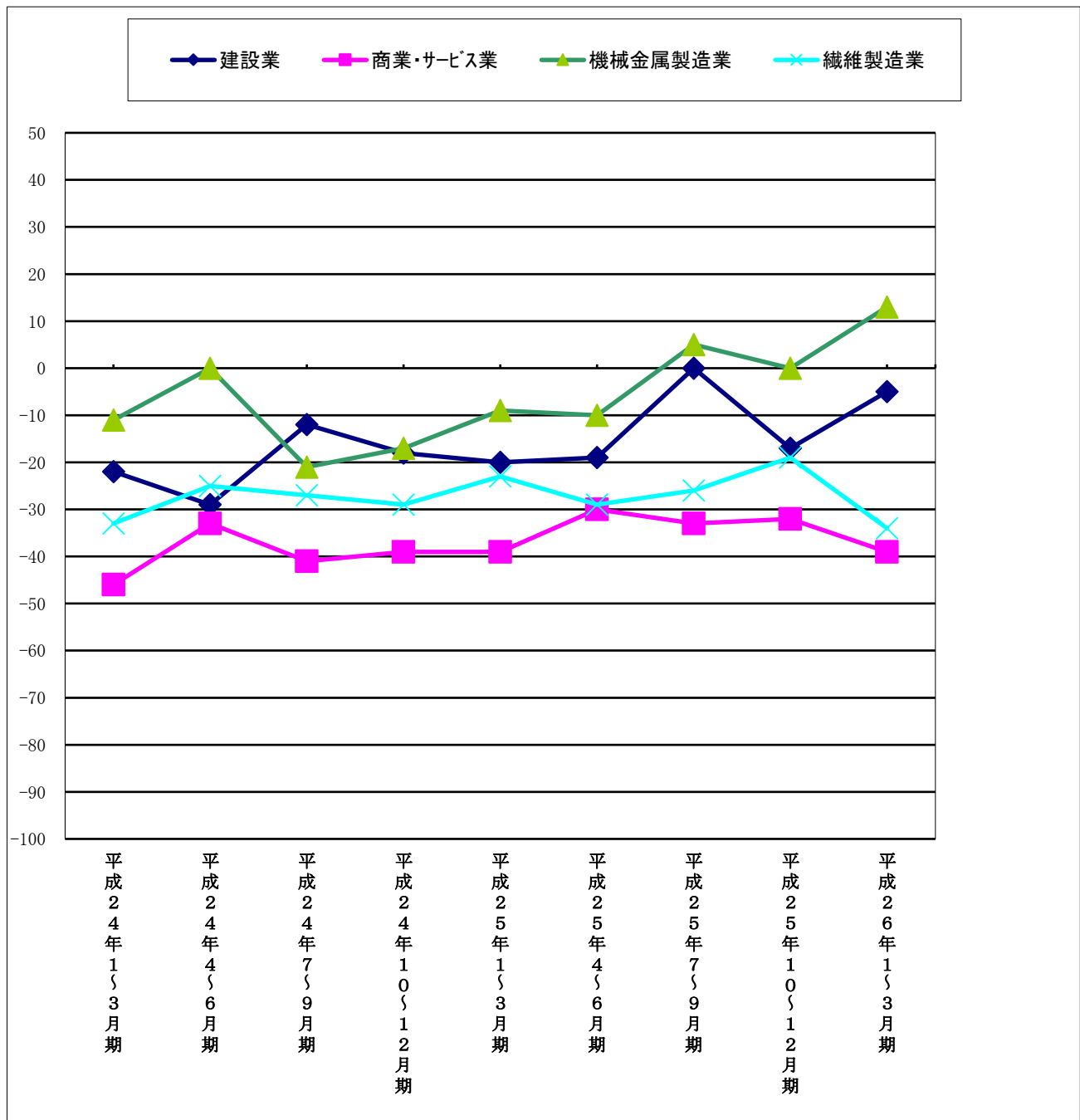
【繊維製造業】



資金繰りDIの推移

	建設業	商業・サービス業	機械金属製造業	繊維製造業
平成24年1～3月期	-22	-46	-11	-33
平成24年4～6月期	-29	-33	0	-25
平成24年7～9月期	-12	-41	-21	-27
平成24年10～12月期	-18	-39	-17	-29
平成25年1～3月期	-20	-39	-9	-23
平成25年4～6月期	-19	-30	-10	-29
平成25年7～9月期	±0	-33	5	-26
平成25年10～12月期	-17	-32	±0	-19
平成26年1～3月期	-5	-39	13	-34

[平成24年1～3月期] から [平成26年1～3月期]



今期直面している経営上の問題点

	1位(%)	2位(%)	3位(%)	4位(%)	5位(%)
建設業	材料価格の上昇 25.0	請負単価の低下・ 上昇難 11.5	熟練技術者の 確保難 9.6	民間需要の停滞 7.7	下請単価の上昇 7.7
前期	2位 12.0	2位 6.0	1位 14.0	4位 10.0	4位 10.0
前年同期	2位 11.4	2位 11.4	2位 11.4	1位 13.6	6位 6.8
商業・サービス業	需要の停滞 19.6	消費者ニーズの 変化への対応 14.6	購買力の他地域 への流出 12.1	材料等仕入単価の 上昇 11.6	大企業進出での 競争激化 8.0
前期	1位 18.8	2位 12.6	3位 12.6	5位 8.9	6位 7.9
前年同期	1位 22.0	2位 14.6	3位 11.9	3位 11.9	8位 3.7
機械金属製造業	製品単価の低下・ 上昇難 19.1	需要の停滞 16.2	原材料価格の上昇 14.7	生産設備の不足・ 老朽化 10.3	従業員の確保難 7.4
前期	1位 20.5	2位 14.5	6位 7.2	3位 10.8	6位 7.2
前年同期	1位 25.0	2位 18.4	4位 7.9	3位 14.5	-
繊維工業製造業	需要の停滞 19.3	製品単価の低下・ 上昇難 18.2	製品ニーズの変化 への対応 11.4	生産設備の不足・ 老朽化 11.4	原材料価格の上昇 9.1
前期	2位 21.3	1位 22.5	4位 8.8	4位 8.8	3位 13.8
前年同期	1位 24.1	2位 21.8	3位 16.1	4位 8.0	5位 8.0

今期の従業員数D I

	建設業	商業・サービス業	機械金属製造業	繊維製造業
平成24年1～3月期	6	-3	5	3
平成24年4～6月期	0	-1	0	-9
平成24年7～9月期	-13	-11	-6	-16
平成24年10～12月期	0	-8	-12	-6
平成25年1～3月期	7	-5	16	-6
平成25年4～6月期	6	-11	23	-10
平成25年7～9月期	6	-4	8	-9
平成25年10～12月期	-6	-9	16	-15
平成26年1～3月期	-5	-12	21	-14

事業所からのコメント（直面している問題点など）

【建設業】

- ・石油関連のアスファルト・下水管等の価格上昇と、ガソリン・軽油の高値に関連して運賃が大幅上昇

【商業・サービス業】

- ・地域住民の高齢化
- ・アベノミクスが話題だが小売業には未だ上昇気運がない。消費増税で売上減少は目に見えている
- ・客も店主も高齢化し、買い回りが出来なくなって来た。店の引き継ぎや終わらせ方を上手く考える時期に来ている
- ・消費税増税後に不安がある
- ・努力しても時の流れに勝てない
- ・人口が増えないのに大型店ばかり増えて安売り合戦で利益は出ない。やめる勇気もなく困っている
- ・増税前の駆け込み需要は小さい店では関係なく、むしろ減少して先が大変
- ・不況に加え、消費税の増税は購買層の将来への不安感を与え、更なる景気の後退があるものと思う
- ・店主の高齢化と客数の減少
- ・4月の消費増税でどのような経済状況になるか懸念があるが、体力がある限り頑張るしかないと思っている。商店街がシャッター通りになって久しいが、欠けて行く月もやがて満ちてくる事を信じて経営を継続するつもりでいる。大阪の天神橋筋商店街600店舗、南北2.6キロ（日本一長い商店街）、人・物・金・情報・パワーのある街、あそこに全ての答えが眠っている様な気がする。一度あの雰囲気を感じてみたいと思う。食い倒れの大阪は信長の時代も今も凄いと思う
- ・増税前の駆け込み消費により、4月以降の消費の落ち込み、特にサービス・レジャーへの影響を懸念している
- ・消費増税による買い控えムード

【機械金属製造業】

- ・個人事業主の税率が高く、翌年度の税金の額が高く心配
- ・受注の減少
- ・アベノミクスによる円安で原材料の単価が上昇
- ・引き合いはあるが単価の低いものに集中している